

授業科目名	健康と社会		
科目番号	1F22011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	春 A 月 5,6
担当教員	柴山 大賀, 竹熊カツマタ 麻子, 阿部 吉樹, 伊藤 智子, 萩野谷 浩美		
授業概要	現代の少子高齢化の社会構造やストレス社会において、人々に様々な健康影響が生じている。今回は、自殺、がん、糖尿病などの健康問題を取り上げ、その介入アプローチや疾病予防のための健康づくり、さらにはセルフケアという視点での考察を通じ、働き方や生活の仕方を見直す機会とし、今後のあり方を探る。		
備考	(看護開設) 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	F		
水準・区分			
教育目的	少子高齢社会を含めた社会構造の変化は、生活習慣病や精神的不調者の増加など、人々の健康にさまざまな影響を与えている。また、ストレス社会の中で、国民一人一人が働き方や生活の仕方を見直す必要がある。そこで本科目では、社会的関心の高い様々な健康問題にスポットをあて、社会の歴史の変遷と施策を振り返りながら、いかに社会的要因が健康に影響するのかについて、考察を深める。		
到達目標	1. 今日の社会的関心の高い健康問題について、歴史的な変遷や社会的施策から考察することができる。 2. 健康問題の解決に向けて必要な専門的知識や技術について説明することができる。 3. 健康を向上させていくために必要な介入アプローチを提案することができる。		
キーワード	健康, 社会, ケア, 介入アプローチ		
各回授業計画	現代の少子高齢化の社会構造やストレス社会において、人々に様々な健康影響が生じている。今回は、糖尿病の管理、高齢者ケア、健康診断、在宅ケア、ストレス対処を取り上げ、その介入アプローチや疾病予防のための健康づくり、さらにはセルフケアという視点での考察を通じ、働き方や生活の仕方を見直す機会とし、今後の社会や自身のあり方を探る。		
	第 1 回【4 月 16 日】 社会構造の変化と糖尿病 (柴山) 代表的な慢性疾患である糖尿病の成り立ちとその管理方法について理解を深める。		
	第 2 回【4 月 16 日】 糖尿病を社会全体で管理するための仕組みづくり (柴山) 糖尿病の管理に Chronic care model を適用することを例に、海外での実践例をふまえて糖尿病を管理するうえで実現可能性の高い社会システムについて考える。		
	第 3 回【4 月 23 日】 高齢者ケア (米国を例に)1(竹熊) 前期高齢期、後期高齢期を生きるということや社会のなかで高齢者の人たちがどのように受け止められているか、また主体的に生きているかということなどを知り、高齢者と社会とのかかわりについて考察する。		
	第 4 回【4 月 23 日】 高齢者ケア (米国を例に)2(竹熊) 高齢者のケアをめぐる課題、医療制度、医療保険制度改革、人種、宗教、文化、ジェンダーなどの要素も含めながら高齢期を生きるということを考察する。		
	第 5 回【5 月 7 日】 健康診断の社会的意義 (阿部) 健康診断が果たしてきた役割と、現在の考え方について概説する。		
	第 6 回【5 月 7 日】 健康診断の活用方法 (阿部) 健康管理のために、さまざまに整備された健康診断をどう活用するか、受診後にどのような行動をとることが望まれるかを考える。		
	第 7 回【5 月 14 日】 在宅で死ぬこと (伊藤) 多死化社会を迎える中で、在宅で死ぬことの方策やリスク、制度背景を学ぶ。		
	第 8 回【5 月 14 日】 在宅で介護者になること (伊藤) 在宅で家族を介護する場面で必要な知識や技術、そしてそれをサポートする制度を学ぶ。		

	第 9 回【5 月 21 日】 ストレス社会における生活者としてのセルフケア (1)(萩野谷) 社会構造の変化が生活者におよぼす影響について概観し、生活過程を整えることの必要性について学ぶ。
	第 10 回【5 月 21 日】 ストレス社会における生活者としてのセルフケア (2)(萩野谷) 学生自身の生活のあり方を考察し、生活過程を整えていくために必要な要件と具体的方法について学ぶ。課題レポートは、以下の 5 つのテーマから 2 つを選択する。 テーマ 1. 糖尿病を地域で支えるには テーマ 2. よりよい高齢者ケアにむけて テーマ 3. 健康診断のこれからの活用方法 テーマ 4. 在宅で生きること「病気になり老いて死ぬこと」 テーマ 5. ストレス社会における生活者としてのセルフケア 課題レポート内容: 講義後に自身でさらに当該テーマについて深掘りし、到達目標 1~3 の点 (考察、説明、提案) を盛り込みレポートをまとめる。表紙はつけず、1 行目に自身で掘り下げた課題名を示し、2 行目に学籍番号と名前をつけ、4 行目から本文をまとめる。1 つの課題につき、字数は 2,000 字程度。必ず、文献をつける (文献は字数に含まない)。 提出方法: 課題レポート 1 と 2 はファイルに分けて、Word または PDF にて、manaba 上で提出する。ファイル名は、「健康と社会:課題レポート 1:テーマ番号:学籍番号」「健康と社会:課題レポート 2:テーマ番号:学籍番号」とする。 提出期日:課題レポート 1 と課題レポート 2 とともに 2018 年 6 月 18 日 (火)17:00
履修条件	なし
成績評価方法	課題レポート 1 (50%)、課題レポート 2 (50%) 講義の 2/3 以上に出席し、課題レポート 1 と 2 をあわせて 60 点以上の得点をおさめることにより単位を認定する。
授業外における学習方法	自ら進んで関心のあるテーマに関する文献や資料を読む。
教材・参考文献	講義で適宜紹介
オフィスアワー・連絡先	授業時に知らせる。
履修者へのメッセージ	講義後に、健康と社会のつながりを、さらに深掘りしてみてください。

授業科目名	国際学を学ぶ III		
科目番号	1F05014	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	春 AB 月 1
担当教員	中野 優子		
授業概要	グローバル化が進展し、環境問題や人口問題が深刻さを増すなか、国際社会で生じる諸現象について理解することが求められている。本講義では、グローバルな対応が求められる国際社会の諸課題に対して、人文・社会科学や情報・環境学における様々な視点や方法からアプローチしつつ、今後の国際社会の在り方について理解と考察を深めることを目的とする。この「国際学を学ぶ III」では、「国際学を学ぶ I」及び「国際学を学ぶ II」で学んだ国際政治・国際法、経済学、文化・社会開発、情報・環境学に関わる基礎知識を発展させる。授業は PBL あるいはグループワーク形式を採り、グループごとに設定したリサーチトピックについて、課題の設定、課題の解決に向けた文献講読や資料収集、調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行い、理解を深める。		
備考	*履修は「国際学を学ぶ I」、「国際学を学ぶ II」の少なくともどちらかを履修済みの者に限る。なお、国際総合学類生の受講は認めない。 (国際開設)【受入上限数 60 名】		
授業形態	講義及び演習		
科目群	F		
水準・区分			
教育目的	「国際学を学ぶ I」及び「国際学を学ぶ II」で学んだ国際政治・国際法、経済学、文化・社会開発、情報・環境学に関わる基礎知識を具体的な国際的課題の解決に応用することによって、より深い理解と社会において必要な実践的思考を身につける。		
到達目標	1. 国際社会における諸問題に対する意識を深めることができる。 2. 国際社会の問題解決のために、国際政治・国際法、経済学、文化・社会開発、情報・環境学の分野において、どのような取り組みが実施されているかを理解することができる。 3. 今後のより良い国際社会の構築に向けて、何が必要とされているかを自分で考える能力を養うことができる。		
キーワード	国際学		
各回授業計画	<p>第 1 回【4 月 16 日 中野優子 人文社会系】 [授業の概要説明とグループ分け] 履修者を(カード等で)4 分野に分けます。各自自分に割り当てられた分野の授業をもとにその分野に関するグループ発表をしますので、各自一回のグループ発表となります。</p> <p>第 2 回【4 月 23 日 大友貴史 人文社会系】 [国際安全保障環境の変化と日本の対応(国際政治・国際法分野)] 日本を取り巻く国際安全保障環境は近年急激に変化しているが、国際関係理論を通してその原因と影響を理解する。そして、日本にはどのような政策的選択肢があるのかを考える。 ※グループ発表のテーマ例:北朝鮮核開発問題、中国の台頭、米国内の変化などが日本に与えた影響とそれらに対する日本の対応(政策提言)</p> <p>第 3 回【5 月 7 日 黒川義教 人文社会系】 [国際貿易と賃金格差(経済学分野)] この第 3 回目の授業では、「国際貿易と賃金格差」特に「国際貿易は近年多くの国で観察された熟練・非熟練労働者の賃金格差拡大に貢献したのか?」というテーマで講義を行う。第 8 回目の授業では、いくつかのグループに実際の事例について発表してもらう。 ※グループ発表のテーマ候補:先進国における国際貿易と賃金格差、途上国における国際貿易と賃金格差</p> <p>第 4 回【5 月 14 日 井出里咲子 人文社会系】 [言語文化の多様性と国際社会(文化・社会開発分野)] グローバル化に伴う国内外の言語文化の変容について、個人のアイデンティティとコミュニティ形成の両面から論じる。複数言語を使い分ける中で人はいかなるアイデンティティをもつのか、母語をもたないということはどういうことかなどについて論じつつ、世界の少数言語や言語消滅の意味についても考える。 ※グループ発表のテーマ例:少数言語、危機言語の現状、地域言語復権・復興の意義、早期英語教育の光と影、英語が世界共通語となることの功罪等。 (参考図書:川上郁雄(2010)『私も「移動することも」だった』くろしお出版)</p>		

第 5 回【5 月 21 日 白川直樹 システム情報系】 [水資源開発に伴う環境問題(情報・環境分野)] 水は地球上どこでも必要不可欠な資源でありながら、その開発が引き起こす環境問題のあらわれ方は地域特性を反映して多様である。どのような場所ではどのような問題が起きており、どのように人間は対処してきたのか、いくつかの軸に基づいて考察する。 ※グループ発表のテーマ例:都市用水の環境影響、水力発電と環境用水、食料生産と水環境	
第 6 回【5 月 28 日 TA】 [グループ発表の打合せ]	
第 7 回【6 月 4 日 大友貴史 人文社会系】 [グループ発表(国際政治・国際法分野)]	
第 8 回【6 月 11 日 黒川義教 人文社会系】 [グループ発表(経済学分野)]	
第 9 回【6 月 18 日 井出里咲子 人文社会系】 [グループ発表(文化・社会開発分野)]	
第 10 回【6 月 25 日 白川直樹 システム情報系】 [グループ発表(情報・環境分野)]	
第 11 回【7 月 2 日 中野優子 人文社会系】 期末試験	
履修条件	履修は「国際学を学ぶ I」、「国際学を学ぶ II」の少なくともどちらかを履修済みの者に限る。なお、国際総合学類生の受講は認めない。
成績評価方法	評価方法(評価割合)及び評価基準 A:グループワーク(40%)・・・グループ内での個人貢献度の違いを考慮。 B:学期末試験(60%)・・・持込不可。
授業外における学習方法	必要に応じて指示する。
教材・参考文献	各講義担当者が授業中に個別に指示する。
オフィスアワー・連絡先	mailにて連絡 中野優子 nakano.yuko.fn@u.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	さまざまな学問的アプローチに対する知的好奇心をもって受講してください。

授業科目名	心のしくみを解き明かすニューロサイエンス		
科目番号	1F07011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	春 AB 月 2
担当教員	山田 一夫		
授業概要	21 世紀の科学の最大のテーマである「こころ」の理解を目指すニューロサイエンス (神経科学) は、心理学、行動学、分子生物学、細胞生物学、解剖学、生理学、薬理学、臨床医学、工学、社会科学等を含む学際的な学問領域として現在も発展し続けている。本講義では、ニューロサイエンスにおける最新の研究知見を紹介し、今まさに明らかにされつつある「こころ」のメカニズムについて理解を深める。なお一部の講義は、ニューロサイエンスでの共通言語である英語で行う。		
備考	(心理開設) 【受入上限数 200 名】		
授業形態	講義		
科目群	科目群 F		
水準・区分			
教育目的	21 世紀の科学の最大のテーマである「こころ」の理解を目指すニューロサイエンス (神経科学) は、心理学、行動学、分子生物学、細胞生物学、解剖学、生理学、薬理学、臨床医学、工学、社会科学等を含む学際的な学問領域として現在も発展し続けている。本講義では、ニューロサイエンスにおける最新の研究知見を紹介し、今まさに明らかにされつつある「こころ」のメカニズムについて理解を深める。なお一部の講義は、ニューロサイエンスでの共通言語である英語で行う。		
到達目標	ニューロサイエンスの基礎的な知識だけでなく、より実践的・発展的な研究知見に触れることで、社会へ還元するための可能性等について考えることができ、さらには卒後の自身キャリア形成にも繋げられる。		
キーワード	心理学、基礎医学、障害科学、人間工学、記憶、社会性、攻撃行動、味覚・嗅覚、認知症、ドーパミン神経、脳損傷		
各回授業計画	<p>所属の異なる複数の教員によるオムニバス形式で、筑波大学および近隣研究所でのニューロサイエンス研究の最新の知見について解説する。</p> <p>第 1 回【4 月 16 日 高橋阿貴 人間系】 [イントロダクション・怒りのニューロサイエンス] 人によって怒りやすさやイライラしやすさは異なります。怒って殴りかかりたいと思っても、多くの人は我慢することができます。一方で、抑えがきかずに暴力をふるってしまふ人もいます。このような違いはどうして生ずるのでしょうか?攻撃行動を制御する神経メカニズムを明らかにするための最新の神経科学的手法を用いた試みを紹介します。</p> <p>第 2 回【4 月 23 日 一谷幸男 人間系】 [精神疾患と動物モデル] 統合失調症やうつ病のような心の病気 (精神疾患) への対応は現代社会が抱える課題ですが、発症機構について明らかにされていないことが多い。神経科学において精神疾患の動物モデル研究が、病気の解明や治療の開発のためにどのように役立っているかを、お話しします。</p> <p>第 3 回【5 月 7 日 山中克夫 人間系】 [ニューロサイエンスと認知症ケア] 認知症の人でよくみられる認知機能低下や精神症状、それらに関連すると思われる脳の部位について解説する。同時に本人の心や行動を理解するためには、正常な機能や状況や文脈をおさえることの重要性についてふれる。</p> <p>第 4 回【5 月 14 日 C. Pavlides 人間系】 [Brain mechanisms of spatial navigation] Based on the discovery of 'place cells' by O'Keefe and Dostrovsky (1973) the hippocampus has been hypothesized to function as a spatial or cognitive map. Besides place cells, a number of other components of the navigational system have been discovered, including grid cells, head direction cells, etc. Based on these discoveries John O'Keefe, May-Britt Moser and Edvard Moser, got the Nobel prize in Physiology or Medicine in 2014. The class will go over the spatial navigation system in the brain including a description of the anatomy, physiology and how the different components fit together to tell us how to navigate in different environments.</p>		

第 5 回【5 月 21 日 綾部早穂 人間系】 「においのニューロサイエンス」 においの好き嫌いは、どのように決まるのでしょうか? 香水のにおいだから「いいにおい」とは限りませんし、自分のペットの猫の肉球のにおいが大好きな人もいます。 においの好き嫌いに関わるニューロサイエンス研究を解説します。	
第 6 回【5 月 28 日 小早川達 産業技術総合研究所】 [味のニューロサイエンス] イチゴ味やメロン味は何でしょうか?お袋の味がわかりますか?鼻をつまめば、なぜ味がわからなくなるのでしょうか?こんな味覚と嗅覚に関わるニューロサイエンス研究を解説します。	
第 7 回【6 月 4 日 山田洋 医学医療系】 「ベジが好き?コーラが好き?あなたの好き嫌いを決める脳の仕組み」 近年の研究で明らかになった、物の好き嫌いに基づく” 価値判断” を行う脳の仕組みを、前頭葉を中心に紹介します。	
第 8 回【6 月 11 日 武田裕司 産業技術総合研究所】 [人間工学におけるニューロサイエンス] 人の認知や感情の状態を客観的に計測することは、より良い商品やサービスを開発する上で重要です。近年、商品やサービスの評価をニューロサイエンスの手法に基づいて行う「ニューロエルゴノミクス」が注目されています。脳波計測を用いたニューロエルゴノミクスの研究事例について紹介します。	
第 9 回【6 月 18 日 加藤克紀 人間系】 [初期社会環境と脳・行動の発達] 私たち人間の社会においては、親子や友人などの人間関係が大きな影響をもっています。特に幼少期の人間関係、すなわち初期社会環境は、性格形成や行動発達との関係で長年注目されてきました。この講義では、そうした初期社会環境と脳・行動の発達との関係をご紹介します。	
第 10 回【6 月 25 日 山田一夫 人間系】 [覚えておきたい記憶と忘れた記憶] あなたはすべての経験を覚えておきたいですか? ヒトは覚えておくべき記憶と忘れてもいい記憶を区別していますが、動物も同様な記憶機能を持っています。ここではラットを用いた記憶・忘却研究について紹介します。	
第 11 回【7 月 2 日 高橋阿貴 人間系】 [学期末試験]	
履修条件	特になし
成績評価方法	70% 以上出席した者に対して、学期末試験により評価します。
授業外における学習方法	各講義において適宜紹介します。
教材・参考文献	各講義で使用する資料については、事前に manaba で配付します。
オフィスアワー・連絡先	オフィスアワーは特に設けていません。まずはメールで連絡をしてください。 kayamada at human.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	人間総合科学研究科感性認知脳科学専攻において行動科学分野および神経科学分野を担当する教員によるオムニバス授業です。ぜひ今後の進路決定の参考にしてください。

授業科目名	スポーツと平和・非暴力		
科目番号	1F24212	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	春 AB 月 2
担当教員	河合 季信		
授業概要	スポーツは、言葉や人種、宗教などを超えて人々が交流できるという機能を持つ一方で、実践の現場では、選手間、指導者と選手との間、選手と社会との間などで、依然として様々な暴力やイジメ、ハラスメントなどが存在する。本科目では、種々の場面で発生する意見の相違や対立状態に対して建設的に対処する方法や、その前提となる自身や他者を尊重することの意義を演習を通して学び、前述した課題の解決法を探る。また、それらとオリンピックの価値（「Excellence」「Respect」「Friendship」）や平和との関連について理解を深める。		
備考	(体育開設)【受入上限数 120 名】		
授業形態	演習		
科目群	F		
水準・区分			
教育目的	スポーツは、言葉や人種、宗教などを超えて人々が交流できるという機能を持つといわれる一方で、スポーツ場面において、選手間、指導者と選手との間、選手と社会との間などで、依然として様々な暴力やイジメ、ハラスメントなどが存在し、スポーツのインテグリティを脅かす大きな要因となっている。スポーツに関わる者が、自分自身と他者の人格を尊重する態度や、暴力やイジメの原因となるコンフリクトの特性とその対処法を学ぶことで、そうした状況を改善できると考えられる。本プログラムは、スポーツを通じた平和教育を世界各地で実施している Non-Violence Project 平和教育プログラム「Sports for Peace」を活用して、指導者としてさまざまな暴力の根絶につながる具体的な対処法を身につける。		
到達目標	スポーツにおけるイジメ、暴力の根絶に向けて、その背景となる自身と他者の人格を尊重する態度、コンフリクトの特性とその対処法を学ぶ。		
キーワード	平和教育、非暴力、セルフ・エスティーム、コンフリクト・マネジメント		
各回授業計画	<p>第1回【4月16日】 イントロダクション:授業の目的、進め方について説明する。 「良い友人になろう」:良いアスリート、よいチームメンバーになるとはどういうことかについて理解する。</p> <p>第2回【4月23日】 「勝利をめざして協力・協同しよう」:アスリート一人ひとりが協力・協同し、チームとして機能することとはどんなことか理解する。</p> <p>第3回【5月7日】 「コンフリクトを見きわめよう」:コンフリクトとはどういうものか、ネガティブな面とポジティブな面について理解する。</p> <p>第4回【5月14日】 『「コンフリクト・ズー」に行ってみよう』:コンフリクト状況における行動スタイルについて理解し、自身の行動スタイルが状況によって変化することに気づく。</p> <p>第5回【5月21日】 「良い聴き手になろう」:コミュニケーションを活性化させるようリスニング・スキルについて学ぶ。</p> <p>第6回【5月28日】 「セルフ・エスティームをはぐくもう」:セルフ・エスティームの重要性について学び、セルフ・コンフィデンスとの違いを理解する。</p> <p>第7回【6月4日】 「自分のニーズを解き明かそう」:ニーズ(欲求)について理解し、自身のニーズについて考える。また、それがスポーツとどのように関連するかについて考える。</p> <p>第8回【6月11日】 「自分の感情を解き明かそう」:自身や他者のニーズと感情との関係について理解し、コンフリクトの解決につなげる方法を考える。</p> <p>第9回【6月18日】 「平和と非暴力のロールモデルを知ろう」:ネルソン・マンデラなどスポーツなどを通して平和と非暴力に取り組んだロールモデルについて学ぶ。</p> <p>第10回【6月25日】 「平和に向けて行動を起こそう」:平和で非暴力的なスポーツ環境や社会を実現するために、自身で何ができるかを考える。</p>		

履修条件	各回の内容は相互に関連をもつて段階的に発展するため、毎回必ず出席できること。また、毎回必ずアクティビティがあるので、主体的・積極的に参加すること。なお、アクティビティの中には、手をつなぐなどの軽い身体的接触があるものもあるので、あらかじめ了承しておくこと。
成績評価方法	アクティビティでの積極性、指導力などを元に、知識、意欲、態度などを総合的に評価する。
授業外における学習方法	各回のアクティビティ内容を事前に伝えるので、教材を使って事前に内容の確認をする。また、「ブックレット」を使って課題を実施する。
教材・参考文献	1. Non-Violence Foundation, 『Sports for Peace ビース・プログラム・イントロダクション レベル 1, 2, 3』 2. Non-Violence Foundation, 『Sports for Peace コーチ・マニュアル レベル 1』 3. Non-Violence Foundation, 『Sports for Peace アスリート・ブックレット レベル 1』
オフィスアワー・連絡先	特に設定しないので事前にメールで日程調整をしてください。 体育系 B 棟 3F B316 研究室 kawai.toshinobu.gp at u.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	すべての回に出席し、アクティビティなどを通してプログラム内容の理解と実践力があると認められたものには、「NVP トレーナー」の資格を授与する。

授業科目名	障害科学から見た社会—インクルーシブ社会の一員としての「自分」—		
科目番号	1F08011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	春 AB 金 4
担当教員	名川 勝, 岡 典子, 竹田 一則, 鄭 仁豪, 野呂 文行, 高橋 正雄, 栢植 雅義, 八重田 淳, 米田 宏樹		
授業概要	「人間が社会的に自立するとはどういうことか」、「社会に参加し、自己実現を図るとはどういうことなのか」について、障害のある人への教育的・福祉的支援や、障害のある人と社会との関係を学ぶことをとおして、受講生に考えてもらう。さらに、誰もが社会参加し自己実現を図ることのできるインクルーシブ社会の実現のために、受講生各人が社会の構成員として自分にできることを、自分の学士力に照らして考える機会を提供する。		
備考	(障害開設) 障害科学類生の受講は認めない。また、総合科目 II 「障害とともに生きる III」及び人間学群コア科目「障害科学 II」を履修済みの者の受講も認めない。 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	F		
水準・区分			
教育目的	それぞれの学類における学びを積み重ね、社会との接点により身近になった高年次学生に、障害のある人への教育的・福祉的支援や、障害のある人と社会との関係を知ってもらい、「誰もが社会参加し自己実現を図ることのできるインクルーシブ社会」の実現のために、自らの学士力のできることを考える機会を提供する。		
到達目標	1 知識: 障害のある人の教育的福祉的支援を知り、これからの共生社会の基本である「合理的な配慮」の在り方を、受講生各々の専門に照らして考えることができる。 2 意欲・態度: 「共生社会」実現のために、社会の一員として自らができうる事柄について、積極的に関わろうとする意欲や態度を示すことができる。		
キーワード	インクルージョン, 障害のある人, 合理的配慮, 社会参加, 自己実現, 社会的自立		
各回授業計画	<p>第 1 回【4 月 13 日 名川勝 人間系】 [障害者の権利擁護と意思決定支援] 本授業の進め方等に関するオリエンテーションを実施後、障害者の権利擁護と意思決定支援について講述する。障害のある人がとりわけ地域社会で生活を行うためには、権利擁護システムを構築することが重要である。これについて社会福祉法ほかに定められる権利擁護制度を概観した後、成年後見制度や意思決定支援の現状と課題について説明する。</p> <p>第 2 回【4 月 20 日 岡典子 人間系】 [インクルーシブ社会と障害] インクルーシブ社会とは何かについて、これまでの社会と障害の関係史を概観するとともに障害者の権利条約と合理的配慮について講述することを通して考察する。</p> <p>第 3 回【4 月 27 日 米田宏樹 人間系】 [インクルーシブ社会と教育—知的障害のある人を中心に—] 知的障害のある人と社会との関係を特に教育を中心に概観し、インクルーシブ社会における教育の課題について考察する。</p> <p>第 4 回【5 月 11 日 野呂文行 人間系】 [「自閉」は越えられるか?] 自閉症の人たちのもつ障害とは何か。それを克服するためにはどのような課題が存在するのかを解説する。</p> <p>第 5 回【5 月 18 日 鄭仁豪 人間系】 [ろう者の文化と生活] ろう者の福祉や雇用からみた生活の現状と、アイデンティティを基盤としたろう者コミュニティや文化について理解する。</p> <p>第 6 回【5 月 25 日 高橋正雄 人間系】 [文学にみる「障害者」] 古今の名作の中で「障害者」がどのように描かれているのかを、精神医学的な観点から解説する。取り上げる主な作品は、『リア王』『プレーメンの音楽隊』『ドン・キホーテ』など。</p> <p>第 7 回【6 月 1 日 竹田一則 人間系】 [出生前診断の進歩と障害] 障害や疾病を児が生まれる前に知る、出生前診断の技術は近年急速に進歩、普及しつつある。しかし、その実施には多くの倫理的な問題が存在し、社会的なコンセンサスを得るには解決しなければならぬことが多い。医療技術の進歩と生命倫理は相反するものなのか。この問題を通してあらためて障害の意味を考える。</p>		

第 8 回【6 月 8 日 八重田淳 人間系】 [元気になる職業リハビリテーション] 日本の職業リハビリテーション(障害者就労支援)の現状と課題、障害をもちながら働くことの意味、生き甲斐、労働の質について概説する。また米国を中心とした最新職業リハビリテーション事情について紹介する。	
第 9 回【6 月 15 日 栢植雅義 人間系】 [才能と発達障害—自分の中の発達障害、相手の中の発達障害—] 卓越した才能の出現と種々の発達障害の出現の関係性・親和性について理解した後、自分や相手に見られる様々な才能や発達障害に見られる特性について具体的に見つめ直し、誰もが力を発揮して豊かに暮らせるインクルーシブな社会について考察する。	
第 10 回【6 月 22 日 名川勝 人間系】 [インクルーシブ社会の構成員として自分にできること] 講義のまとめと討論を実施する。	
第 11 回【6 月 29 日 名川勝 人間系】 [期末試験]	
履修条件	障害科学類生の受講は認めない。また、総合科目 II 「障害とともに生きる III」及び人間学群コア科目「障害科学 II」を履修済みの者の受講も認めない。
成績評価方法	期末試験 60 点、授業内での課題・ショートレポート 40 点により総合的に評価する。
授業外における学習方法	授業配布資料と紹介文献の精読、受講者同士あるいは受講者以外との討論で問題意識を深めること。
教材・参考文献	授業時に適宜紹介する。
オフィスアワー・連絡先	授業担当教員は全員人間系の所属である。 各回の担当者の連絡先はオーガナイザー名川に問い合わせること。 名川 勝 月曜 6 限 人間学学系棟 B206 nagawa.masaru.gf at u.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	大学での自らの学びを振り返り、卒業までの学びを見直し、社会の一員としての自らの在り方を考えてもらう機会として、是非活用してください。

授業科目名	記録遺産学		
科目番号	1F20011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	春 C 月 1,2
担当教員	白井 哲哉, 辻 泰明, パールィシエフ エドワルド, 江前 敏晴, 田中 友香理, 石田 大平		
授業概要	文化財や文化的な資料を対象に、どのように記録を作成し、学術資料として管理していくかを解説する。記録された文化財(主として文字資料・映像資料)を取り上げ、アーカイブズ学・博物館学の視点から、古文書を含む歴史的公文書等・記録映像・文化遺産的資料(石碑・拓本・竹簡・木簡等)を取り上げ、ドキュメンテーション(記録管理)の方法論を学ぶ。		
備考	(知識開設)【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	科目群 F		
水準・区分			
教育目的	物理的な文化財や情報的なデジタル文化財が混在する今日であるが、知識を後世に伝えるのは、文字であり、映像であり、記録である。ここでは、記録とは何か、記録遺産とは何かを多くの事例を通して自ら考え、文化的な資料を後世に遺産として残していくことを考える。		
到達目標	記録された文化財(主として文字資料・映像資料)を通して、知識情報学、アーカイブズ学、博物館学の視点から、歴史的公文書等・記録映像・文化遺産的資料(石碑・拓本・竹簡・木簡等)の重要性を認識し、自ら遺産価値を見出す視点を養う。		
キーワード	記録遺産、歴史的公文書等、記録映像、文化遺産的資料、ドキュメンテーション、アーカイブ、博物館学、記録管理		
各回授業計画	<p>オムニバス形式の講義である。</p> <p>第1回【7月9日(月)1限 白井哲哉 図書館情報メディア系】 [記録遺産とは何か]</p> <hr/> <p>第2回【7月9日(月)2限 白井哲哉 図書館情報メディア系】 [記録遺産とは何か]</p> <hr/> <p>第3回【7月17日(火)1限 非常勤講師】 [マイクロフィルム記録保存とデジタル化]</p> <hr/> <p>第4回【7月17日(火)2限 非常勤講師】 [マイクロフィルム記録保存とデジタル化]</p> <hr/> <p>第5回【7月23日(月)1限 江前敏晴 生命環境系】 [紙の保存科学]</p> <hr/> <p>第6回【7月23日(月)2限 江前敏晴 生命環境系】 [紙の保存科学]</p> <hr/> <p>第7回【7月30日(月)1限 田中 人文社会系】 [日本における記録遺産とアーカイブズ]</p> <hr/> <p>第8回【7月33日(月)2限 辻 泰明 図書館情報メディア系】 [記録遺産としての映像資料]</p> <hr/> <p>第9回【8月6日(月)1限 エドワルド・パールィシエフ 図書館情報メディア系】 [ヨーロッパにおける記録遺産とアーカイブズ]</p> <hr/> <p>第10回【8月6日(月)2限 白井哲哉 図書館情報メディア系】 [大災害と記録遺産]</p>		
履修条件	なし		
成績評価方法	レポート		
授業外における学習方法	授業内容に応じた小レポートを課す。		
教材・参考文献	特になし。		
オフィスアワー・連絡先	白井 哲哉 水 2 限 7D407 tetsushi at slis.tsukuba.ac.jp		
履修者へのメッセージ	記憶と記録、映像記録、ドキュメンテーション等、多くのモノをみてください。		

授業科目名	都市・地域・環境を探る III		
科目番号	1F17021	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	秋 A 木 1,2
担当教員	大澤 義明, 藤井 さやか		
授業概要	近年の世界的な社会経済状況の激変により、私たちの住宅や、生活する都市、地域の環境は様々な変化の圧力を受けている。この変化を受動的に受け止めるのではなく、変化のメカニズムを理解し、望ましい環境を形成する主体的な知力を身につけることが求められている。本科目では、総合科目「都市・地域・環境を探る I,II」の発展形として、都市計画やまちづくりの実践事例を手掛かりに、社会の構成員である私たちが都市・地域・環境にどのようにかかわっていくべきかを考える。		
備考	(社工開設)平成 26 年度以前に総合科目 II「1C17121 都市・地域・環境を探る III」の単位を修得した学生は履修不可。 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	F		
水準・区分			
教育目的	近年の世界的な社会経済状況の激変により、私たちの住宅や、生活する都市、地域の環境は様々な変化の圧力を受けている。この変化を受動的に受け止めるのではなく、変化のメカニズムを理解し、望ましい環境を形成する主体的な知力を身につけることが求められている。都市・地域・環境を探る III では、都市計画やまちづくりの実践事例を手がかりに、社会の構成員である私たちが都市・地域・環境にどのように関わっていくべきかを考える。		
到達目標	A) 身近な都市・地域・環境の問題を発見できる B) 発見した問題について、その原因や影響を分析し、説明できる C) 問題を解決するため、自分が果たすべき役割とキャリア形成について考える		
キーワード	都市、地域、環境、まちづくり、つくば、茨城県		
各回授業計画	<p>第 1 回【10 月 4 日(木)1 限 岡本直久 システム情報系】 「インフラの老朽化対策」 老朽化が進むインフラストラクチャ(道路、上下水道、公共施設等)の維持管理と再編の現状と課題について紹介する。</p> <p>第 2 回【10 月 4 日(木)2 限 三上靖彦 茨城の暮らしと景観を考える会】 「NPO による茨城の地域活動」 茨城のまちづくり市民団体活動とそれを活かしたまちづくり活動を具体の事例を交えながら紹介する。</p> <p>第 3 回【10 月 11 日(木)1 限 火箱芳文 第 32 代陸上幕僚長・現三菱重工顧問】 「東日本大震災と自衛隊による復旧復興支援活動」 東日本大震災の際に自衛隊が実際に行った復旧支援活動についての現状を現場の声を交えて紹介する。</p> <p>第 4 回【10 月 11 日(木)2 限 土屋智子 NPO 法人 HSE リスク・シーキューブ】 「リスクコミュニケーションの現場から「役割と限界」」 リスクコミュニケーションの概念を説明するとともに、茨城県東海村で発生した臨界事故以来関与してきた東海村のリスクコミュニケーション活動や福島県内の活動事例を紹介し、社会問題解決のプロセスにおけるリスクコミュニケーションの役割とその限界を示す。</p> <p>第 5 回【10 月 18 日(木)1 限 関正樹 関彰商事】 「地元企業によるまちづくり」 研究学園都市の生活を支えてきた地元企業によるまちづくりへの貢献について紹介する。</p> <p>第 6 回【10 月 18 日(木)2 限 矢野俊介 日本人材機構】 「地域経済活性化と人材」 人材紹介を通じた地方活性化について紹介する。</p> <p>第 7 回【10 月 25 日(木)1 限 木内敏之 木内酒造(資)】 「食による茨城再生 1:茨城県の食資源」 江戸時代から続く老舗酒造からみた茨城県の食資源の魅力について紹介する。</p> <p>第 8 回【10 月 25 日(木)2 限 木内敏之 木内酒造(資)】 「食による茨城再生 2:世界への発信」 江戸時代から続く老舗酒造の業種拡大・海外展開への挑戦と、今後の展望について紹介する。</p>		

	<p>第 9 回【11 月 1 日(木)1 限 野仲賢勝 株式会社電通スポーツ局】 「Jリーグクラブチームによる地域貢献 1:Jリーグによる取組み」 Jリーグによる地域貢献について、その考え方や具体的内容を紹介する。</p> <p>第 10 回【11 月 1 日(木)2 限 野仲賢勝 株式会社電通スポーツ局】 「Jリーグクラブチームによる地域貢献 2:チームの取組み」 Jリーグクラブチームによる地域貢献について、その考え方や具体的内容を紹介する。 ※ 期末試験は実施しない</p>
履修条件	「都市・地域・環境を探る I 及び II」とあわせて履修することで、より総合的な理解が得られる。平成 26 年度以前に「都市・地域・環境を探る III」を履修したものの履修は不可。
成績評価方法	・60% 以上の出席が必須(遅刻は減点対象となる) ・授業内課題及び授業態度・・・講義内容の理解度及び積極的な参加姿勢(60%) ・課題(レポート)・・・問題発見と解決策の独創性、説得力、表現力、プレゼンテーション力(40%)
授業外における学習方法	講義中で紹介する文献・資料を読み、いろいろなまちを実際に歩いて観察する。
教材・参考文献	講義の中で、適宜指定する。
オフィスアワー・連絡先	メールで事前に連絡すること。 藤井 さやか メールでアポイントをとってください fujii at sk.tsukuba.ac.jp ※ 各回講師の連絡先は、講義中に案内する。
履修者へのメッセージ	身近な都市・地域・環境に興味関心を持ち、また自分の将来のキャリア形成と関連付けながら講義に取り組んでほしい。

授業科目名	スポーツジャーナリズム		
科目番号	1F24011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	秋 AB 月 6
担当教員	嵯峨 寿, 福原 直樹		
授業概要	スポーツの普及・発展に多大な影響をおよぼす「スポーツジャーナリズム(放送、新聞、出版など)」について、それが用いる表現、手法、取材、編集などを切り口に、海外や過去の事例との比較による分析と考察を通じ、わが国のスポーツジャーナリズムの現状と喫緊の課題を浮き彫りにし、これからの望ましいあり方を探る。		
備考	(体育専門学群開設)【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	F		
水準・区分			
教育目的	いま、スポーツジャーナリズムのあり方が問い直されている。2020 東京五輪に関する昨今の報道を見ればわかるように、スポーツはいまや人間の運動のレベルにとどまらず、経済、文化、政治など社会の他の分野と複雑に絡み合い結びついており、記録報道や選手たちのバックグラウンドなどの情報が中心だった従来のスポーツジャーナリズムは、大きく変わりつつあるからだ。2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向け、スポーツジャーナリズムはどのように革新されるべきなのか。本学の研究者や一線で活躍するスポーツジャーナリストなど専門家を招へいし、多方向から現状を分析し今後を展望する。		
到達目標	1) 講義の要点を把握し、読み手を意識して表現・発信できるようになる。 2) スポーツジャーナリズムの現状と問題点を把握し、変革に向けた自身の意見、アイデアを述べられるようになる。 3) スポーツの発展にはたすジャーナリズムの役割と責任について説明できるようになる。		
キーワード	スポーツ、ジャーナリズム、2020 年東京オリンピック・パラリンピック		
各回授業計画	<p>第 1 回【10 月 1 日 福原直樹 人文社会系・嵯峨寿 体育系】 [オリエンテーション] 授業開設の動機と意図、各回講義の特徴と担当講師の紹介、成績評価の観点と基準、受講に当たっての約束事項などを説明し、授業に臨む双方の姿勢と意欲を確認する。</p> <p>第 2 回【10 月 9 日 福原直樹 人文社会系】 [スポーツジャーナリズムの現場 IOC 不祥事報道を例に] 全国紙の特派員として、国際オリンピック委員会 IOC 委員による開催都市の選定に関わる不祥事を取材した講師が、当時の取材等の体験を振り返り、あらためてスポーツジャーナリズムがもつ厳しさと醍醐味を語る。</p> <p>第 3 回【10 月 15 日 嵯峨寿 体育系】 [スポーツのとくダネとオリンピック報道] ジャーナリストと名乗る以上は特ダネを追いかけ報道するのが王道と言われるが、「スポーツの特ダネ」になるものはスポーツの高潔性を裏切るスキャンダルばかり。しかし本当の特ダネとは、その現出を待ちわびる私たち観客がついアクビをした瞬間に見逃してしまうものではあるまいか。</p> <p>第 4 回【10 月 22 日 中西裕介 アフロ所属プロカメラマン】 [スポーツ写真のささやき] カメラマンにとって自分が撮りたい写真と売れる写真は必ずしも一致しない。だから私たちが普段目に見ている写真は不本意な作品であるとすれば、本意が結晶したものとどのような写真なのか。スポーツやアスリートを被写体に何を伝え訴え感じてもらいたいのだろうか？</p> <p>第 5 回【10 月 29 日 本間三和子 体育系】 [スポーツジャーナリズムへの挑戦状] マスコミ不信がピークに達した中田英寿は、一切かれらには口を開かず、自身のブログで直接ファンに語りかける道を選んだ。さて、競技者、指導者、競技役員らが報道関係者に抱いている不信や怒りの根底にはどんな出来事、体験が関係しているのだろうか、シンクロナイズドスイミングの五輪メダリスト、指導者、国際審判員、水泳連盟理事の体験を通して語る。</p> <p>第 6 回【11 月 12 日 河野俊史 スポニチ代表取締役社長】 [スポーツ新聞におけるスポーツジャーナリズム] ピンク記事はじめ芸能や娯楽も扱う日本のスポーツ新聞は、スポーツ報道に当たっての取材、執筆、編集、見出し、読者層などの面で一般紙の運動面などと比べどのような特徴を売り物としているのだろうか。</p>		

第 7 回【11 月 19 日 岡田弘隆 体育系】 [解説者から見たスポーツジャーナリズム] スポーツ中継番組に起用される解説者はジャーナリストではないが、報道体制の中に組み込まれた一員であるがゆえに、自由勝手な言動は許されない。かれらに課せられた諸制約に、わが国スポーツジャーナリズムのあり方が透けて見えるに違いない。	
第 8 回【11 月 26 日 坂田信久 元日本テレビプロデューサー】 [テレビスポーツ報道] 報道の即時性という点では先進的なテレビでのスポーツ中継。箱根駅伝のテレビ放送化を実現し、高視聴率を稼ぎ出すモンスター番組に育て上げたプロデューサーが今だから語る、スポーツ報道に携わるテレビマンの使命感と醍醐味とは。	
第 9 回【12 月 3 日 福原直樹 人文社会系・嵯峨寿 体育系】 [スポーツのニュージャーナリズム] すぐれたジャーナリズムに贈られるピューリッツァー賞作家、ハルバースタム(米)が書いたスポーツノンフィクションをめぐる、その作品や記事の特徴と魅力に触れたい。『栄光と狂気』『マイケル・ジョーダン』などを取り上げる。	
第 10 回【12 月 10 日 海後宗男 人文社会系】 [メディア研究からみたスポーツジャーナリズム] これまでの授業はスポーツジャーナリズムの現場や経験に基づく議論が中心であったが、アカデミックはどう見ているのか、メディア研究を専門とする講師が活字・映像それぞれのスポーツジャーナリズムと読者・視聴者のメディア・リテラシーについて論ずる。	
第 11 回【12 月 17 日 福原直樹 人文社会系・嵯峨寿 体育系】 [期末試験] 期末試験を行う。	
履修条件	特になし
成績評価方法	出席票裏面に毎回書くりアクションペーパー(50%)、期末試験(50%)、以上 3 つの方法により総合評価する。
授業外における学習方法	特に定めないが、一般紙の精読、テレビニュースの視聴を継続することを勧める。
教材・参考文献	授業の際に提示する場合がある。
オフィスアワー・連絡先	嵯峨 寿 saga at taiiku.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	上述の授業の目的/方針は堅持するが、授業の具体的内容、担当者、順番などは変更する場合があります。